



学校だより

令和 2年 11月 2日

万騎小通信

11月号

横浜市立万騎が原小学校

TEL 3 5 1 - 5 6 4 8

Fax 3 5 1 - 7 3 6 4

E-mail ; y 3 makiga @edu.city.yokohama.jp

【学校教育目標】「明日を創ろう！ みんなが笑顔 夢中になって」

「できることをやっいていこう」 ～万騎小教職員の矜持～

教務主任・児童支援専任 八谷 祐輝

新年度になり、臨時休校が続くと分かった時点から、万騎小スポーツフェスティバル（以下スポフェス）について教職員全員で幾度となく議論を重ねました。開催可否についてはもちろん、（開催するのなら）種目はどうか、参観方法はどうか、など一つひとつ決めていかねばならないことがあり、これまで普通に行えていたことができない状況に立ち向かうことの困難さやジレンマを教職員の誰もが味わいました。本校では「できることをやっいていこう」と方向性を決め、開催を決定しました。今まで経験したことのない状況に対して、チーム万騎が原として教職員一人ひとりが知恵を出し合い、スポフェスについての会議では誰もが必死に考えました。教務主任としてその会議の司会をしていると、教職員の熱い意見交換に圧倒されることもしばしばでした。

「自分や友達の成果や成長を感じる」これを今年度のスポフェスのねらいとし、特に低・中・高学年ごとに行われる演技では「教師による教示」だけではなく、児童実行委員を立て練習の司会や進行を児童が行ったり（もちろん児童らの主体的な活動になるよう教員が必要に応じて指導に入りました）、異学年でのグループ練習を計画的に入れ取りしました。また学年に応じてめあてカードなどを用いてスポフェス当日に向け継続的に学んでいけるようにしました。これは令和元年度学校便り2月号に掲載した学校アンケートから、「今の自分を見つめられる」「こうなりたい自分をイメージし、前向きな手立てを考えられる」子どもを育てていくための具体的な手立てのひとつでした。

そしてスポフェス当日、いずれのブロック演技も子どもが集中し、緊張し、そして楽しんでいる。環境面や日程面で制限された状況の中、子ども達のやりきった後の誇らしげな表情、友達とお互いをたたえ合う姿を見ることができ、教職員一同、教師冥利に尽きるスポフェス期間でした。

（以下、児童の振り返りの抜粋）

- 演技が終わった瞬間「やりきった」という気持ちがこみ上げてきてとても気持ちがよかった。この気持ちを忘れないようにしようと思った。
- 種目が減ったけどその分、演技に大きな力を込められたんじゃないかなと思いました。心をひとつにするためには少しずつの積み重ねが大事なんだなということが分かりました。
- プロジェクト（実行委員）の人たちが、下の学年がより上手になるためには、ということを考えながらやっている姿に感動しました。下の学年の人たちは上の学年にがんばってついでいこうという熱心さが見られたので、来年が楽しみにになりました。
- 「合わせる」を意識したら、みんなの演技になって、「一人じゃない」「みんなで踊るのが楽しい」と感じました。

保護者の皆様、スポフェスに対してご理解ご協力ありがとうございました。今月からは本校の特色ある教育活動の一つ「にこにこ班活動」（たてわり学年グループやペア学年での活動）が本格的に始まります。

今後も「今、できること」を考え、「夢中」「笑顔」あふれる学校づくりを教職員一丸となり、進めていきます。よろしくお願ひします。

